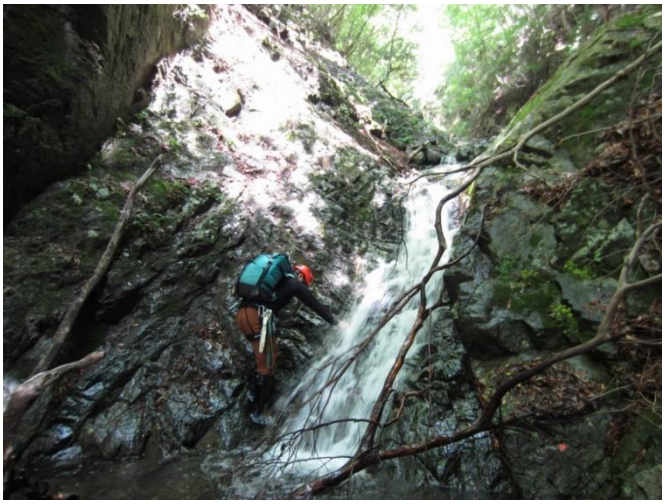
会山行 NO.2142

丹沢：水無川 源次郎沢

◆日程　　2017 年 5 月 27 日(土)
◆メンバー　L ： 小林、岡村
◆天候　　晴れ


水量多く，この後，ずぶ濡れになった

前日の雨から一転して晴天。水たまりをよけて，戸沢林道を進む。戸沢バンガローを過ぎて，木陰で装備をつけた。ここで小林さんから，「地図は防水し地図とコンパスはザックを下ろさないでも見られるように」と指導を受けた。あわてて地図を折りたたんでコンパスと共にジップロックに入れて，ポケットにねじ込む。

歩き始める。いきなり道と別れて川原を歩くべきものなのか？小林さんからは「聞かないで地図を見て」と。それならと地図を見て道を進むと，ロープが張られ，行く手を阻む。躊躇したが乗り越えて道を進む。しばらくして小林さんに声をかけられて，沢に下りる。沢は入渓点が難しい。

先頭を歩かせて頂いた。せっかく沢なのだからと思って，水の中を積極的に歩いた。これでいいのか，どうなのか。小林さんからは「沢には正解はない。自由。それでもロスがない方がいい。」と教えを受けた。自由から逃走し，「ロスがない」を目指して歩く。何歩か先まで読んで歩きたいが，足元ばかり見てしまう。「顔は前に向け目線だけ下に向ける」と教えて頂くも，なかなか難しい。滝を登るのはすごく楽しい。途中，頭から水をかぶったときは，少し息苦しいほどで，全身ずぶぬれになった。それでも楽しい。岩と違うのは，足を置いてみると滑る場合があることだ。私はラバーソールの沢靴だが，フエルト底ならそんなことはないという。

いくつかの滝は，途中まで登ったものの，やめておこう，と判断して下り，巻き道を進んだ。「沢では自分が登れるかなと思う力量の 50～60%、でも遊びこころも大切」という小林さんの言葉があった。事故を起こさない事，大丈夫と確信できることをすべき，ということと思う。

ところが，巻き道も容易ではない。ぬかるんで滑る泥斜面に足を置くのを嫌がって，無理に石の上に乗ると，その石が落ちた。落石には気をつけなくてはいけないと思った。「体重のかけ方が大事」と後で教わる。

また，私が二股と思ったところは，二股より上の別の出合で，危うくおかしな支沢に入るところだった。ガイドブックには，二股は「入口を見落としやすい」とあるが，見落としたようだ。地図上での予習が足りなかった。

草付きを登り花立山荘に出た。眼下には真鶴半島，初島，大島，江ノ島，三浦半島。振り向けば富士山（演習場から轟音が響く）。沢装備の武装解除をして休憩，空腹に気づく。おにぎりがうまい。小林さんにビールを分けて頂く。沁みる。

下山、踊り出すように小林さんが大倉尾根を下りはじめる。そのステップに懸命についてい

く。１本で大倉に着いて，ビール。うまい。今回，沢では少しの余裕もなく，その瞬間、瞬間に必死だった。お読みの文章に個別の場所を特定した記載がないのは，その現れである。これは反省点で，今後の課題である。

CT：大倉 8:25-戸沢出合 9:45　/10:15-花立山荘 12:45/13:15－大倉 14:35

（記：岡村）

花立山荘にて、遠くまで見渡せた。